



高専通信

2013/12

Vol. **9**

TOYAMA National College of Technology



☑ CONTENTS

- 02 富山高専ヘッドライン
「商船学科卒業証書・海事システム工学専攻修了証書 授与式」
- 04 教務主事からのメッセージ
- 05 合同球技大会
- 06 各種全国大会の成績
- 08 県外工場見学・流通見学(4年生)
- 10 高専ロボコン(アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2013)
- 12 志峰祭
- 14 県内工場見学(3年生)・県外研修(2年生)
- 15 News&Topics
- 16 平成26年度入試情報/学生相談室からのお知らせ



平成25年度

商船学科
卒業証書

海事システム工学専攻
修了証書

授与式

苦楽をともに過ごした絆を胸に 卒業生・修了生の晴れやかな旅立ち



教官方の繋いだ襷

実習生
山本 京

2008年に本校に入学した私たち商船学科は、真面目な雰囲気クラスでした。今は亡き、もきち先生は担任として私たちをとっても可愛がってくださいました。3年生から担任になられた八賀教官は一人ひとりの素質を見て『職は食なり』を口癖に私たちの進路を真剣に考えてくださいました。そして、最後の担任になられた経田教官は、会社や大学に綿密に連絡をしてくださり就職進学を全力でサポートしていただきました。私たちは素晴らしい先生方のリレーがあって一人も留年生を出すことなく本校を飛立つことができました。ありがとうございました。



高専の思い出

海事システム工学専攻2年
雪垣 智志

人生の3分の1を富山商船(現富山高専)で過ごし、思い出に残っていることは、球技大会等のイベントや、学生会活動です。球技大会は学生主体で運営されており、さらに参加者の学生の多くが全力で競技に参加していた印象です。

普段は落ち着いた雰囲気の学校がイベント事になると活気に満ち溢れる時が好きでした。将来の抱負は、やりたい事に妥協しない生活を送る事です。

在校生もあらゆる目標に向かってしっかり準備することを忘れてないで日々の生活を送ってもらいたいと願っています。



平成25年9月25日(水)、富山高等専門学校卒業証書・修了証書授与式が、秋晴れのもと射水キャンパス第2体育館で挙行されました。1年間にわたる大型練習船乗船実習を終えた航海コース20名、機関コース23名計43名の商船学科学生と2年間の座学を修了した海事システム工学専攻科生2名が式に臨みました。

石原校長が白い制服に身を包んだ学生一人ひとりに卒業証書・修了証書を手渡し、「卒業おめでとう。家族への感謝と人との出会いを大切に、本校や練習船実習で学んだ知識・技術・体験を活かし、遭遇するであろう困難に対して堂々と対応してほしい。」との告辞がありました。在校生代表として篠崎雅学生会長(国際ビジネス学科4年)からの送辞を受け、卒業生・修了生代表として市山千絵さんが「学校生活や乗船実習での厳しい自然との格闘の経験から、どんな困難があっても必ず道は切り拓けるということを学んだ。この5年半で学んだことは行く先々の道標となるだろう。」と力強く答辞を述べました。

最後に、卒業生たちが壇上に整列し、帆船の出航の際の登檣礼にならない「ごきげんよう」を三唱したのち制帽を宙高く投げる伝統の門出の挨拶で学舎をあとにしました。



**商船学科21期生
卒業生の皆さん
卒業おめでとうございます**

商船学科担任
経田 僚昭

皆さんが4年生のときに初めての担任として挨拶してから2年半、主に進路の窓口として取り組んでおりました。そのなかでは実際に私だけではどうしようもないことにも遭遇しましたが、皆さんに助けられながら卒業式の日を担任として迎えることができました。

これからは、皆さん各自が選んだ道を進むうえで、様々な場面に遭遇し、そのなかには私と同様に自分の力だけではどうしようもないことに遭遇することもあると思います。しかし、皆さんには4年半同じクラスで過ごした友人、1年間の実習で出会った友人がおりますので、如何なる問題に直面しても、助け合いながらあつという間に解決できると信じております。

平成25年度卒業生・修了生

商船学科/航海コース20名、機関コース23名 専攻科(海事システム工学専攻)/2名

主な進路(五十音順)

■就職先

旭運輸(株)、旭タンカー(株)、(株)キセキ北陸、(株)ウイングマリタイムサービス、川崎汽船(株)、山九(株)、渋谷工業(株)、ジャパンマリンユナイテッド(株)、新日本海フェリー(株)、スミセ海運(株)、大洋電気(株)、大洋日本汽船(株)、立山酒造(株)、津軽海峡フェリー(株)、東海汽船(株)、(株)東洋通信社、東レ(株)、日本米船(株)、日本海運(株)、日本コンテナ・ターミナル(株)、(公財)日本船員雇用促進センター、日本通運(株)、(株)ファブリカトヤマ、福寿企業(株)、北陸発電工事(株)、(株)ボルテック、名港海運(株)

■進学先

神戸大学、東京海洋大学、富山高専専攻科、豊橋技術科学大学

学生表彰

本校表彰規程によるもの

名称	航海コース	機関コース	海事システム工学専攻
学業優秀賞	丸山 莉紗	上波 純一	雪垣 智志
皆勤賞	該当者なし	上波 純一	
精勤賞	山本 京	田畑 龍ノ介	
特別賞(学寮会長)	安村 泰生	橋本 拓弥	

学会表彰(学科から学会等に推薦するもの)

名称	航海コース	機関コース
日本航海学会奨学褒賞	丸山 莉紗	
日本船舶海洋工学会奨学褒賞	喜多條 裕希	中村 慎太郎
財団法人海技教育財団表彰	岡田 瑞記	亀田 友太
全日本船舶職員協会賞	荒井 優佑	佐川 翔梧
日本機械学会島山賞		橋 士遠
日本マリンエンジニアリング学会山下賞		渡辺 大気

卒業生答辞 市山 千絵



**海事システム工学専攻
7期生へ**

海事システム工学専攻 担任
山本 桂一郎

専攻科海事システム工学専攻修了生のみなさん修了おめでとうございます。8月末の大学評価・学位授与機構の審査結果を本当に楽しみました。専攻科での日々の努力が報われた結果となりました。2人のクラスということで、お互いをライバル視し高め合い、励まし合いながら学校生活を送っていました。専攻科での研究生活は、つらいことの方が多かったかもしれませんが、それは充実という言葉で思い出されると信じています。さて、修了生は7.5年間慣れ親しんだ本校を離れ、両名とも暮らしを支える仕事に就きます。多くの人が期待している仕事です。戸惑うこともあるかもしれませんが、何事にも大きく構えて、さらに成長を続けていってほしいと思っています。



学生の学び主体にした教育の動き

本郷キャンパス教務主事

本江 哲行

昨年の高専通信でも紹介しましたが、日本をはじめ世界の教育が大きく変わろうとしています。全国の国立高専でも学生の学びの到達目標であるモデルコアカリキュラム(試案)が制定されました。

では、モデルコアカリキュラム(=学習到達目標)が制定されることにより何がかわるかを説明します。これまでの教育では、カリキュラム、授業科目と時間を示して教育をしていました。要するに、学校で教員が学生に何を教えたかが中心でした。しかし、これからは、『学生自身が到達目標を理解するとともに自学自習という主体性や創意工夫によって目標への到達度を自ら管理(セルフコントロール)するためのもので、教職員を含むチームで達成しようとするものである』と変化するということです。そのためには、学生や教員が意識の改革が必要です。その過程は以下のとおりになります。

① 目的の明確化

学習のプロセスにおいて、将来の技術者像や人材像に育つことを学生及び教職員が互いに認識する。

② 能力及び到達度の見える化

能力及び到達度を明確にすることで、学生は目標や現状が理解でき、主体性や自学自習の定着(学習の継続性)を図ることとなる。

③ 目標の統一化(ベクトル合わせ)

学生個人や学生同士、教職員が同じ目標を掲げ、到達することにより、学生本人の目標達成だけでなくチーム全体の能力向上にもなる。

④ 適性の明確化

技術者となる過程で学生の到達目標毎の強み弱み(得手不得手)を理解することは、その専門性や個性、伸び代などを把握して適性を見出すこととなる。

このように、学生が自分の到達目標と計画をたて、チェックを行い、その進捗と到達度を学生と教員で確認し支援する方向に変わります。

富山高専でも、当然、学生を主体とし、世界に通用する学生を育てるために教育改善に努めていきますが、学生の皆さんの意識の変化も必要です。学生の主体的な学びのために、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。



創造的な高専生をめざそう

射水キャンパス教務主事

新開 純子

インターネットの発展に伴い、Web検索をすれば自分の求める情報が簡単に探すことができる便利な時代になっています。自分で考える前にすぐにWeb検索を行い、検索内容をレポート等に安易に書いて、何の疑問も持たないで満足している学生が少なくないような気がします。

文章の語尾が、「です・ます」調と「だ・である」調が混在したレポートを見たことがあります。そのレポートは、いくつかのWeb検索した内容をそのままコピーしたものでした。語尾の違いも確認することなく提出されたレポートです。このレポートを提出した学生は、自分の考えを構築するせっかくの機会を失い、発見の喜びも、わかったという感動も、できたという満足感も味わうことがない学び方をしていました。

情報化社会の中で色々な情報を活用することは、必要な基本スキルです。どのようにその情報を活かして、どのような学び方をするかが重要になります。大げさな言い方ですが、どのような生き方をしたいかにつながると思います。

時間とエネルギーをかけて、これまで学んだ知識と技術を土台に、試行錯誤を繰り返し、学生同士が互いに切磋琢磨しながら考え、つくりあげる学び方をしてください。これこそが高専だからできる学び方です。たとえ思うような結果がでなくても、時間をかけ悩んで考え、つくりあげるプロセスは貴重な経験になり、自信に繋がるものです。頑張ったという自信が次のステップへの力になります。

さらに、授業内容を学生同士で話し合う学び方をしてください。授業の学習内容を理解した学生が理解していない学生へ教えることは、一見一方向のコミュニケーションのように見えますが、そうではありません。相手の疑問にどのように答えれば理解してもらえるのかを考え、相手の理解の変化に合わせて自分も工夫をする双方向のコミュニケーションになります。これが理解することの喜びにつながります。

学生同士が互いに認め合い、切磋琢磨しながら学び、学びのおもしろさを知る創造的思考力のある高専生であってほしいと思います。

本郷キャンパス会場

1~3年生

【競技種目】男子ドッチボール、女子ドッチボール、ビーチボール、男子バスケットボール



射水キャンパス会場

4・5年生、専攻科生

【競技種目】男子ドッチボール、女子ドッチボール、ビーチボール、男子バスケットボール、大なわとび



合同球技大会

本郷キャンパス体育局長
電気制御システム工学科4年 村田 智明

今年度の合同球技大会、本郷キャンパスでは1年生から3年生が、射水キャンパスでは4年生から専攻科生がそれぞれのキャンパスで球技に参加しました。

合同球技大会の運営の準備段階では、TV会議等で両キャンパスでの打ち合わせの時間を多く取るなどの工夫を凝らしました。しかし、やはり例年の問題点となっている両キャンパスの運営の意思の疎通は不十分となり、計画を進めるのにとっても苦労しました。

大会当日は、天候に恵まれず屋内のみの種目だけを行うこととなりましたが、予想以上の盛り上がりで良い合同球技大会になったのではないかと思います。本郷・射水両キャンパス合同で行う数少ない行事の一つである合同球技大会を今後も続けていくことができればよいと願っています。

最後になりますが、今回の合同球技大会の運営に協力してくださった学生、先生の皆様、本当にありがとうございました。



合同球技大会を終えて

射水キャンパス体育委員長
国際ビジネス学科4年 梅田 裕平

「合同球技大会なんていない」。多くの学生が言います。私は少しでも楽しいものにしようと、新しいシステムをいくつも導入するなど、大会を盛り上げようと試みました。

大会当日までにいくつものミスが発生してしまいましたが、学生会や先生方の協力のおかげで、何とか乗り越えることができました。

当日は、朝のうちに雨が降っていたために雨天日程での進行になりました。晴天時の種目を楽しみにしていた学生からは残念がる声も聞こえましたが、彼らも雨天時の種目に熱中してくれたようで良かったです。両キャンパスの学生同士の仲も深まったのではないのでしょうか。

大きな遅れも、怪我人も出ず、無事に終わったことが本当によかったです。今後も合同球技大会を通して、両キャンパスの交流が深まればよいと思います。

各種全国大会の実績

第48回全国高等専門学校体育大会 平成25年8月16日(金)～9月1日(日)

バドミントン女子団体、陸上男子円盤投・女子100m・女子砲丸投、水泳男子800mで優勝！

担当校の仙台高等専門学校名取キャンパスをはじめ、東北地区の7つの高専で、13競技が開催されました(ラグビーフットボールは冬期に開催)。



バドミントン部(射水キャンパス)



陸上部(射水キャンパス)



バレーボール部(射水キャンパス)



テニス部(射水キャンパス)



ヨット部(射水キャンパス)

全国高専大会出場 陸上、テニス、バドミントン、女子バレー、柔道、水泳
 インターハイ出場 陸上、ヨット
 国体出場 陸上、ヨット

射水キャンパス

バドミントン

女子団体

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 小川 紗貴(商船学科5年) | 中野 真(商船学科3年) |
| 栗山 葵(国際流通学科5年) | 堀 真那見(電子情報工学科2年) |
| 川邊 真由(国際ビジネス学科3年) | 池田 真子(国際ビジネス学科2年) |
| 河上 嘉子(国際ビジネス学科3年) | 中野 三恵子(商船学科1年) |

女子シングルス 中野 真(商船学科3年)

陸上

男子対校

- | | |
|---|--------------------|
| 男子円盤投  | 長井 勁哉(商船学科3年) |
| 女子100m  | 杉本 有希(国際ビジネス学科4年) |
| 女子砲丸投  | 植田 菜々実(国際ビジネス学科2年) |
| 男子やり投  | 清水 彬央(商船学科2年) |
| 男子110mH  | 五百崎 太郎(電子情報工学科3年) |
| 男子砲丸投  | 井口 佳祐(電子情報工学科4年) |
| 男子4×100mR  | 堀井 直樹(商船学科1年) |
| | 長田 航樹(電子情報工学科1年) |
| | 利波 瞭(情報工学科5年) |
| | 縄井 雅英(商船学科3年) |
| 男子やり投  | 渡邊 勇太(商船学科5年) |
| 男子110 mH  | 堀井 直樹(商船学科1年) |
| 男子砲丸投  | 石附 征也(商船学科3年) |
| 男子円盤投  | 井波 晃希(電子制御工学科5年) |

特別表彰(女子100m 3大会連続1位)
 杉本 有希(国際ビジネス学科4年)



柔道部(本郷キャンパス)

本郷キャンパス

柔道 男子団体 3位

- 岩本 拓朗(機械工学科5年)
- 八十島 巨宏(物質工学科5年)
- 明 卓摩(電気制御システム工学科3年)
- 佐渡 敬一(電気制御システム工学科3年)
- 和泉 潤(物質化学工学科3年)
- 津田 和人(機械システム工学科2年)
- 梶谷 尚希(機械システム工学科1年)



水泳部(本郷キャンパス)と水泳同好会(射水キャンパス)

第十八回全国高等学校体育大会
水泳競技会場

水泳

- 男子100m自由形 2位 佐伯 勇弥(電気制御システム工学科3年)
- 男子800m自由形 1位 佐伯 勇弥(電気制御システム工学科3年)



剣道部(本郷キャンパス)

剣道 女子団体 3位

- 白川 和(物質化学工学科2年)
- 濱谷 華菜子(物質化学工学科2年)
- 吉田 和奈絵(物質化学工学科2年)
- 旦暮 茉莉(物質化学工学科1年)
- 堀 佑里那(機械システム工学科1年)

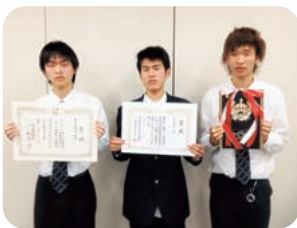
第68回国民体育大会 陸上競技

平成25年9月28(土)～10月8日(火)

少年男子B 110mH 5位 堀井 直樹(商船学科1年)

第49回全国高等学校将棋選手権県大会

平成25年5月25日(土)



男子団体 優勝

- 高島 慧也(機械システム工学科3年)
- 湊 開誠(機械システム工学科2年)
- 野村 俊光(物質化学工学科2年)

男子団体優勝した富山高専本郷キャンパス将棋部は、7月31日(水)の第37回全国高等学校総合文化祭に出場。

第26回全国高校将棋竜王戦県大会

平成25年7月7日(日)

優勝 湊 開誠(機械システム工学科2年)

平成25年8月22日(木)～23日(金)に開催される全国高校将棋竜王戦に出場。

県外工場見学・流通見学(4年生)

工場見学で学んだこと

機械システム工学科4年 志鷹 哲哉



今回の工場見学では7社の工場を見学しました。その中の1つであるヤマザキマザックではNC工作機械の製造をしていました。NC工作機械は実習などで使用したことがあり、高い加工精度の工作機械を作ることができる技術の高さに興味を持っていました。今回の工場見学でNC工作機械の製造過程を見学し、高い加工精度を実現するためのミクロの誤差でも許さないような作業の正確さに驚きました。また工場内での安全確認に対する取り組み意識も高く、指差呼称をして安全確認をしておられ、自分たちも安全に対する姿勢を見習うべきだと思いました。今回の工場見学で自分の作業に自信を持っておられる社員の方を見て自分の未来像について考えるきっかけになっただけでなく、仕事の大変さややりがいについても学ぶことができたと思います。

工場見学に参加して

物質化学工学科4年 澤山 菜々美



今回の工場見学は台風26号の影響により2日目に予定していた2つの企業(住友化学、昭和電工)の見学が中止になってしまいましたが、全体を通して実りあるものになったと思います。特に最初に訪問したカゴメ(株)では飲料のパッケージをするラインを見学し、安全で効率良く製造する工夫を知りました。一方、ホクト(株)ではきのこを一から人の手で計画的に育てて管理していて、また安定した生産を行うために必要な衛生面での高い意識や実際の取り組みが非常に印象的でした。どちらの企業でもコミュニケーションを密にとることが信頼を得ることに繋がると言われ、コミュニケーション力や何かあったら人に相談するという当たり前のことが一番大切なのだと教えていただきました。今後この見学で得たことを活かし、学校生活を送りたいと思います。

県外工場見学を終えて

電気制御システム工学科4年 辻 信太郎



3泊4日の工場見学では愛知、岐阜の工場または研究機関へ行きました。1日目は核融合科学研究所、2日目は豊橋技科大と本多電子、3日目は中部電力の知多火力発電所、日本特殊陶業の小牧工場、最終日はヤマザキマザックの美濃加茂工場へ行きました。そこではかなり近くで研究現場や、製品の生産を見ることができました。建物一つがそのまま大型機械や実験装置が占めているというのは富山高専では見られないので良かったと思います。僕としては見学中に企業や研究職の方に質問することができたのが一番の収穫でした。高専卒と大卒では企業がどんな違いを持って採っているか聞くことができたり、高専卒の方がどんな役割を持って働いているか具体的に聞くことは進路選択の判断材料になったと思います。今後は工場見学で得たものを活かしてがんばってまいります。

各学科の見学先(見学順)

機械システム工学科

(株)ヤマザキマザック、中部国際空港(株)施設サービス、(株)IAI静岡工場、(独)国立印刷局小田原工場、味の素(株)川崎工場、他

電気制御システム工学科

核融合科学研究所、本多電子(株)、中部電力(株)知多火力発電所、日本特殊陶業(株)、他

物質化学工学科

カゴメ(株)富士見工場、日本科学未来館、ホクト(株)佐久きのごセンター、他

電子情報工学科

(株)JALエンジニアリング、産業技術総合研究所、(株)テルム入船事業所、(株)富士通川崎事務所、他

国際ビジネス学科

花王(株)すみだ事業場、東京税関、経済産業省、全日本空輸(株)、他

工場見学の感想

電子情報工学科4年 紅井 里緒菜



私たち電子情報工学科は10月15日から18日の4日間、工場見学に行ってきました。行き先は東京・横浜方面で、見学先は株式会社JALエンジニアリング、株式会社テルム入舟事業所、川崎富士通本社の3社でした。

JALエンジニアリングでは、航空機の整備の仕事を間近で見学し、展示では航空機の歴史を学ぶことができました。川崎富士通では、富士通テクノロジーホールで次世代杖などの最先端の技術を実際に体験させていただいたり、スーパーコンピュータ「京」の開発室を見学させていただきました。テルムでは、家電リサイクルと環境について学び、解体現場を見学しました。どの会社でも実際に現場を見学させていただいて、社風や職場の雰囲気を感じることができ、有意義でした。

どの会社も全く異なった事業をさせていたため、将来の職業の選択肢が増え、卒業後の進路や就職先を考えるよい機会になりました。

関東流通見学で学び、得たこと

国際ビジネス学科4年 櫻井 創太



私たち国際ビジネス学科4年生は10月15日から18日まで、関東流通見学に行ってきました。この4日間に花王すみだ事業場、東京税関、経済産業省、ANAを訪問し、ウエスティンホテル、京王プラザホテルでは卒業生の方々のお話を伺いました。私自身、この流通見学を通して働くということの楽しさや大変さ、先入観だけで組織を見るのではなく実際に肌で感じることの大切さなど、多くのことを学びました。どの見学でも自分たちにとっては普段の授業では学ぶことのできない貴重な体験ができ、とても楽しく充実したものでした。将来について真剣に考えることができるよい機会が得られたと思います。

私たちには来年、就職活動や編入学試験と、自分たちの将来を決める重大な場面があります。この流通見学を通して学び、得た経験を残りの高専生活に活かしていきたいと思います。



射水Aチームが見事準優勝、全国大会に出場を果たす。

全国から57校62キャンパスから各2チームが参加し、アイデアや技術を競い合う「高専ロボコン」。今年度の東海北陸地区大会は、10月20日(日)に鈴鹿市立体育館(三重県鈴鹿市)にて開催され、本郷・射水キャンパスから4チームが参加しました。射水キャンパスAチーム「SuLuMe(スルメ)」がトーナメントを勝ち抜き準優勝し、さらに特別賞(本田技研工業株式会社)を受賞しました。射水キャンパスAチーム「SuLuMe(スルメ)」は、11月24日に国技館(東京都墨田区)で開催される全国大会に出場します。

本郷キャンパス

チーム構成

指導教員 電気制御システム工学科 金子慎一郎先生
電気制御システム工学科 佐藤圭祐先生
機械システム工学科 井澤正樹先生

Aチーム 「助走メロス(はしれめろす)」

メンバー 藤川 枝実(機械システム工学科4年)
杉原 和也(機械工学科5年)
竹澤 大智(電気制御システム工学科1年)

Bチーム 「百鬼夜工(ひゃっきやこう)」

メンバー 須田 龍星(電気制御システム工学科2年)
高坂 憲太(電気制御システム工学科2年)
高木 輝(機械システム工学科2年)



充実した日々を終えて

Aチーム「助走メロス(はしれめろす)」
機械システム工学科4年
藤川枝実

どこにも負けない、自分達だけのジャンプロボをつくる。それを目標に約半年間、全力で戦いました。

人の足を手本にジャンプ機構の試作と実験を重ね、自慢のロボを完成させました! なんといっても美脚が売りです。すらりとしたリンクは、人間の骨格や筋肉をモデルに、運動の幹となる二関節筋を再現。1自由度の運動で確実なジャンプを達成!

さらにこのロボにはカラーセンサを用い、縄回しとの連携を図りました。大会会場では照明の影響で調整が難航。前日に徹夜で頑張るメンバーも。今期は得るものが多い、充実した日々でした。

私はこれで主力メンバーから身を引きますが、後輩が悔いなく戦えるよう、サポートしていきたいです。どうか、よい青春を!



高専ロボコンについて

Bチーム「百鬼夜工(ひゃっきやこう)」
電気制御システム工学科2年
須田龍星

今年の高専ロボコンは、ロボットと協力して縄跳びをするというものでした。今回のBチームは2年生だけでチームを組みました。2年生の力でどこまでロボコンで通用するか、ロボコンではどのような苦労があるかを知るためです。

ロボット製作にあたり一番苦労したのは、期日を守って行動することでした。ロボットに関する知識や経験が乏しい状態でのチャレンジだったので思うように事が運ばず、とても苦労しました。

ロボットは完成しましたが、練習や改良の時間がありませんでした。なので、本番では満足のいく競技は行えませんでした。

今年は満足のいく結果を得られずとても悔しい思いをしました。来年は今年の反省点を踏まえて、必ず満足のいく結果を得たいと思います。



アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2013東海北陸地区大会

日時：平成25年10月20日(日) 場所：鈴鹿市立体育館(三重県鈴鹿市)

2013年の競技課題 『Shall We Jump?』

ロボットと高専生が協力して、大縄跳びを行います。赤・青2チームに分かれて、各チーム2台のロボット(縄回しロボットとジャンパーロボット)と3人の高専生がフィールドで戦います。コントローラーなしで動くロボットと高専生たちが、どのようにコミュニケーションをとり、タイミングを合わせながら課題をクリアするかが見どころとなりました。

大会結果

特別賞(本田技研工業株式会社)：射水キャンパスAチーム「SuLuMe(スルメ)」
奨励賞：射水キャンパスBチーム「ピーター&&デビット」
 本郷キャンパスA・Bチーム、射水キャンパスBチームは初戦敗退。
 本郷キャンパスAチームは、ジャンプ機構が目され、エキシビションに参加。

射水キャンパス



チーム構成

Aチーム「SuLuMe(スルメ)」	
指導教員	電子情報工学科 石田弘樹先生
メンバー	小関紘明(電子情報工学科4年) 荘司成熙(電子情報工学科4年) 一宮正成(商船学科3年)
Bチーム「ピーター&&デビット」	
指導教員	電気制御システム工学科 浦風和裕先生
メンバー	江尻悠将(電子制御工学科5年) 木戸久暉(電子制御工学科5年) 松井一晃(電子制御工学科5年)



全国大会に出場!

Aチーム「SuLuMe(スルメ)」
 電子情報工学科4年
小関 紘明

私達Aチームがつくったロボットは半円状の8本の足を持ち、それぞれを半回転させることで歩行とジャンプを行う機構を備えています。大会では、緊張したのとライトが強くてセンサーが誤動作してしまったことがあり完走することはできなかったものの、準優勝し全国大会への切符を手に入れることができました。とても嬉しい反面、3ヶ月という短い期間ではあったけれど部員全員で試行錯誤を繰り返してきたロボットであり、練習でできていたことを本番で見せる事ができなかった事が悔しくもありました。全国大会へ向けて新たな改良を続けたいと思います。今回の結果を残すことが出来、尽力してくださった石田先生や工場職員の方々、関わってくださった方々に心から感謝いたします。



ロボコンを終えて

Bチーム「ピーター&&デビット」
 電子制御工学科5年
江尻 悠将

今年のロボコンBチームは、電子制御工学科5年生の有志を中心としたチームです。Bチームの製作したジャンパーロボットは、地区大会でもとりわけ大きく重量のあるロボットで、強力なバネの力を利用して豪快なジャンプをします。その機構ゆえに、ロボットは練習中に何度も壊れ、そのたびに改良を加えて作り直しました。体育館での夜遅くまでの活動は寒く辛いものでしたが、ロボットが初めて2回連続ジャンプに成功したときの喜びは忘れられません。本番では練習中のロボットの性能を引き出せず初戦敗退に終わりましたが、電子5年のメンバーで試行錯誤した日々は忘れられない思い出です。お世話になった教職員、学生会の皆様感謝すると同時に、Aチームの全国大会での活躍を期待しています。



志峰祭

第5回高専祭 テーマ「**INNOVATION**」

キャンパス全体が華やかににぎわった2日間

会場となった本郷キャンパスでは、学科・専攻科の展示をはじめ、講演会、コンサート、クイズ大会など盛りだくさんのイベントが開催されました。クレープ、焼きそばなどを販売する模擬店も軒を連ね、多くの人でにぎわう2日間となりました。



演劇部



弦楽
同好会



講演会



献血



ピアノ部



カラオケ
大会



学科展示



鉄道部



屋台



講演会

開催日時：平成25年11月2日(土)、3日(日)

開催場所：本郷キャンパス



志峰祭を終えて

電気制御システム工学科4年
中川 尚大

今年度の志峰祭はINNOVATIONというテーマのもと、志峰祭に革新をもたらし、新たな志峰祭の歴史を作り上げていくこと、さらには志峰祭を通して、自分たち自身も革新させていこうという願いを込めて運営されました。

4月下旬ごろから準備を始め、実行委員会の方々や学生会の先生方と共に時には励まし合いながら、時にはぶつかり合いながら、活動をしてきました。長い準備期間のもと運営された志峰祭は想像を超える大盛況に終わり、本当に辛く、同時に本当に幸せな2日間でした。また、度重なる困難の中で、私たち自身大きく成長することができ、まさに革新することができたと思います。

来年度の高専祭は射水で行われる北斗祭ということで、次に志峰祭が行われるのは2年後となります。私を含め、今回中心となって運営を進めた方々のほとんどは次の志峰祭に関わることはできませんが、志峰祭の歴史を受け継ぎ、また次の世代へと繋げていってほしいと思います。



高専祭を終えて

機械システム工学科4年
竹村沙友理

今年は主催者側として参加する、初めての高専祭でした。私はパンフレットなどの出版物の作成を担当しましたが、一枚の紙を作るのにもたくさんの人が意見を共有し、協力しあっていないと完成しないのだということがわかり、その大変さと、一つのものが完成したときの喜びを体験できました。お客さんとして参加した一昨年では感じられなかった満足感と充実感を得ることができた高専祭でした。



志峰祭—— 両キャンパスの交流

国際ビジネス学科1年
竹岸 理沙

今回の志峰祭が、1年生の私にとっては最初の高専祭でした。初めて味わった志峰祭の空気に胸が高鳴り、来年の北斗祭が一層楽しみになりました。まず、コスプレをした人の多さに驚きました。メイドだったり、漫画のキャラクターであったり、何かよくわか

らないものだったり、見ていてとても楽しかったです。そして、ステージ企画はオリジナリティに溢れており、どれも楽しく見ることができました。友人と一緒に、コスプレをしている人やミスターレディの候補者の方と写真を撮ったりお話をしたりすることができてとても楽しかったです。私は演劇部として「プリンセスプリンセス」というお芝居を上演しました。衣装で歩いていると写真を撮っていただけたり、役名で読んでいただけたりして嬉しかったです。

今回の志峰祭を通して、富山高専の明るい校風がお客様にも伝わったと思います。また、射水キャンパスと本郷キャンパスの交流も深まったと思います。次は射水キャンパスの北斗祭。多くのお客様に来ていただけるよう、より団結していきたいです。

県内工場見学(3年生)

本郷キャンパス

各学科の行先

機械システム工学科：(株)不二越、(株)スギノマシン
電気制御システム工学科：北陸電力(株)、志賀原子力発電所、福浦風力発電所、志賀太陽光発電所
物質化学工学科：日医工(株)、東亜薬品(株)

射水キャンパス

電子情報工学科：(株)日立国際電気、YKK(株)
国際ビジネス学科：(株)北陸銀行本店、コマツNTC(株)
商船学科：海上保安庁 伏木海上保安部、バルチラジャパン(株)



志賀原子力・太陽光発電所を見学して

電気制御システム工学科3年 木村 暢秀

私たち電気制御システム工学科は、北陸電力の福浦風力発電所、志賀原子力・太陽光発電所を見学しました。

私は特に志賀原子力発電所での見学が印象に残りました。志賀原発は外壁が青い空・海をイメージした水色であり、富山のライトレールや金沢の21世紀美術館と同じグッドデザイン賞に選ばれたとても綺麗な建物でした。今回の見学では、東日本震災の影響により発電の様子を見ることはできませんでしたが、原発内には安全面や環境汚染に配慮した多くの工夫がなされています。

今回の工場見学を通して、自分にはあまり関係がないと思っていた電力の問題がとても身近なことに感じられました。今後は将来のために今やるべきことをしっかりやろうと思います。

工場見学

商船学科3年 高木 基志

11月18日(月)天気は快晴。大いなる青空に見送られ商船学科は工場見学へと出発しました。この後、何が起きるかは知らずに。

バスを降りると昂然と構える海上保安庁に入っていました。講演会が始まるとおちゃらけムードから一変、皆が真摯に話を聞きました。救難に関する動画を見て、海保職員の勇敢な姿に感銘を受けるとともに、海上での災害の恐ろしさを再確認させられました。質問コーナーでは商船らしく活発に質問していました。

次はバルチラジャパンというエンジンを取り扱ったり、シールやベアリング等を販売する会社に行きました。そこは世界70か国160拠点ある大企業です。工場内の製造機器を見歩きながら説明を受けました。

最後にクラスの親交を深めるために環水公園の運河クルーズに乗船しました。係員の話や聞き人、話で盛り上がる人、写真を撮る人それぞれ楽しんでいました。

私は工場見学を通して就職に対する視野が広がりました。多種多様な会社があるので、じっくり考え、限らない可能性を活用していきたいと思っています。

県外研修(2年生)



歴史の街を訪ねて

物質化学工学科2年 金子 昌揮

校外研修のあった10月18日は、とても充実した一日になりました。高山には、僕達の想像をはるかに超えた素晴らしい街並みが広がっていました。全国で唯一現存する郡代・代官所である高山陣屋をはじめ、歴史を感じさせる建造物が、街のいたるところにありました。特に街の中心を流れる川に架かる橋の数々には、多種多様で雄大な造型の美しさを感じられ、大変心を打たれました。また、店頭に並ぶ食べ物は、どれも美味しそうに見え、高山グルメに舌鼓を打ちました。帰りのバスでは、皆、はしゃぎ過ぎたのか、疲れて眠っていました。

この高山校外研修を通して、クラスメートとの交流をさらに深めることができました。来年の県内工場見学も楽しみです。

高山研修に学ぶ文化保護

国際ビジネス学科2年 宮 あかり

私達は飛騨高山研修へ行きました。今回は班ごとに分かれての活動で、今までの活動と比べてルートや時間配分など自分達で決めることが多く、それ故に充実した活動を行うことができたと思います。

この研修の中でたくさんの経験をしましたが、私が一番関心を持ったのは町の雰囲気です。高山では町の景観を保つためにコンビニや銀行の外観が変わっていました。これは便利さ、そして文化のどちらをも尊重した非常によいアイデアだと思いました。私達の学校ではより便利な物、システム、形態などを生み出し、追求していく学科が多いです。しかし、もともとあるものの良さと魅力を無くさないよう努めることも大切ではないでしょうか。

Toyama Kosen News & Topics

ニュース&トピックス

富山高専ホームページTopicsもご覧ください。
(http://www.nc-toyama.ac.jp/)

平成25年度専攻科海事システム工学専攻の入学式が行われました



海事システム工学専攻 入学式

10月1日(火)午前10時から、射水キャンパス第1会議室において、平成25年度富山高専専門学校専攻科海事システム工学専攻の入学式が挙行政され、4名が入学しました。

石原校長から、「本科で学んだ海事技術などを基盤として、より高度な技術者を目指すとともに、さまざまな課題や問題に対し全体を俯瞰しつつ、客観的、合理的、そして多面的に状況を分析する姿勢を身につけ、粘り強く、精一杯突き進んでほしい。」と式辞が述べられました。

続いて新入生を代表し、丸山莉紗さんが「基礎学力を深めるとともに、技術者・専門家に必要な研究・開発の能力を向上させ、また、社会人として必要な倫理観などを身につけ、社会に貢献できる人材になれるよう、日々精進し続けることを誓います。」と力強く誓いの言葉を述べました。

吹奏楽部(本郷)が定期演奏会を行いました



定期演奏会

10月13日(日)、本校吹奏楽部(本郷)は第24回定期演奏会「No Names Players' Concert 24th」を富山県教育文化会館で開催しました。

演奏曲は「コンサートマーチ-光と風の通り道」、「パイレーツ・オブ・カリビアン」、「威風堂々」など3部構成11曲、約2時間の演奏会となりました。

演奏以外にも、森のくまさんを用いて楽器紹介を行ったり、第2部ではテーマを映画とし、コミカルな劇の進行とともに演奏が行われるなど、大勢のお客様に楽しんでいただけました。

アントレプレナー研究同好会が富山を演出するアイデアをプレゼンテーションし、入選しました



オコメンと子どもたちの体験活動の様子

7月14日(日)富山国際会議場メインホールで射水キャンパスアントレプレナー研究同好会の2つのチーム「KSG♡」と

「KBG☆」が「株式会社まちづくりとやま」が主催する「学生まちづくりコンペティション2013」の2つの部門にそれぞれエントリーし2つとも入選しました。

結果は以下の通りです。

まちなか演出部門 入選・優秀賞 KSG♡

商品企画部門 入選 KBG☆

2つのチームは9月から11月にかけて、提案したアイデアの実践をしています。KSG♡は富山米をモチーフにしたゆるキャラ「オコメン」を作り、子どもたちといっしょに体験活動を行いました。

KBG☆は富山市が農商工連携による6次産業化ビジネスとして推進している温泉熱を利用して栽培したえごまの需要促進へ貢献するため、フランス人パティシエ「monsieur」とコラボレーションしてえごまクッキーを開発し、とやままちなかコレクション2013、ココマルシェといったまちなかのイベントで販売しPRを行いました。学生まちづくりコンペティション2013は11月30日に市民プラザで最終報告会を行います。

とやま科学オリンピック2013において金賞を受賞しました



金賞受賞の報に喜ぶ石野さんと白岩さん

8月18日(日)に開催されたとやま科学オリンピック2013で、物質化学工学科2年石野佳奈子さんが生物部門で金賞を、同じく物質化学工学科2年の白岩由衣さんが化学部門で金賞を受賞しました。2人はそれぞれの中学校時代の友人とペアで参加し、この成績をあげました。授賞式は12月8日(日)に執り行われます。

北川先生を偲んで

北川俊昭先生が10月1日、突然お亡くなりになりました。先生は早稲田大学の博士課程を修了され、平成6年4月に歴史の教師として迎えられました。クラブ活動では長い期間、野球部の顧問を務められました。平成21年からは寮務主事として、統合の難しい時期に手腕を発揮されました。中国史の論文を多く執筆され、その学術の深さで教養の広さは圧倒的でした。

平成8年に結婚され、翌年のクリスマスに創平君が生まれた時の喜びようは忘れられません。平成23年の冬に病を得られ、厳しい闘病生活をすごされました。静かに病魔と戦われるお姿は感動的でもありました。

これからはご家族、そして多くの卒業生たち、本校の発展を天国から見守ってください。



平成25年度全国高専フォーラムにおける教員表彰

平成24年度国立高等専門学校教員表彰

文部科学大臣賞 丁子哲治 副校長

理事長賞 成瀬喜則 副校長

平成24年度論文賞「高専教育」高専教育論文賞

物質化学工学科 河合孝恵 准教授

「夢のあるエコ活動の創成を目指した学校廃棄

パソコンからの金の回収実験の開発および実践」

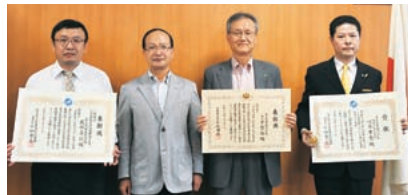
一般教養科 大橋千里 准教授

「富山高専における学生の人間力向上を目指す

部活動指導の実践」



表彰式、前列左から3人目 成瀬副校長、4人目 丁子副校長、前列右から3人目 河合准教授、後列右から3人目 大橋准教授



受賞した教員と校長、左から成瀬副校長、石原校長、丁子副校長、河合准教授。(大橋准教授は当日出張で不在)

平成25年度国立高等専門学校職員表彰理事長賞

技術職員部門 小澤妙子 技術専門職員



平成24年度富山高専専門学校教職員表彰

教育部門 機械システム工学科 白川英観 准教授

研究部門 国際ビジネス学科 清水 真 准教授

業務部門 本郷キャンパス寮務委員会

(代表 高熊哲也 寮務主事)

射水キャンパス寮務主事室

(代表 水本 巖 寮務主事)



本校教員表彰、左から白川准教授、清水准教授、高熊本郷寮務主事、水本射水寮務主事



学科生募集

中学校を卒業した者及び平成26年3月卒業見込みの者などを対象として、次の6学科に平成26年4月から学生を受け入れます。入学者の選抜は、推薦によるものと学力検査によるものの2つの方法で行われます。なお、推薦選抜の募集人員は各学科とも入学定員の50%以内とします。

募集人数

本郷キャンパス

機械システム工学科 入学定員 40名
電気制御システム工学科 入学定員 40名
物質化学工学科 入学定員 40名

射水キャンパス

電子情報工学科 入学定員 40名
国際ビジネス学科 入学定員 40名
商船学科 入学定員 40名
航海コース(20名)・機関コース(20名)

選抜方法

推薦による
選抜

平成26年1月19日(日)
面接 定員の50%以内

学力検査による
選抜

平成26年2月16日(日)
英語、数学、国語、理科、社会

なお、入試関係情報の詳細については、学生募集要項または下記でご確認ください。

申込・
お問い合わせ

本校HP入試情報

<http://www.nc-toyama.ac.jp/>

本郷キャンパス学務課 入学試験担当

電話(076)493-5498

射水キャンパス学生課 入学試験担当

電話(0766)86-5145

学生相談室からのお知らせ

Information

本郷キャンパス

学生相談室本郷キャンパス室長 安田 賢生

皆さん、充実した学生生活を送っていますか？

高専は5年間の修業年限があり、小学校より1年短くだけで、青春期の一番大切な時期を過ごすことになります。入学した1年生は新しい環境になじめない、勉強方法が分からない、目的意識を喪失するなどの入学初期特有の諸問題を抱えるかもしれません。2、3年生になると、生活のバランスが崩れ、無気力や無関心に陥ったり、親や友人、異性との関係など対人関係に悩んだりすることもあります。4、5年生では、卒業が近づいてくることから進路の迷いや将来への不安、卒業研究の指導教員との関係などに悩んだりすることもあるかもしれません。また、専攻科生も目的意識を見失ったり、進路に悩んだりするかも知れません。

学生相談室はそのような学生のために開設されています。皆さんが学生生活の中で抱える色々な問題について、じっくりお話をお聴きします。何となくおしゃべりしたい人も大歓迎です。月曜日から金曜日まで毎日、15時30分から17時まで相談に応じています。火曜日と水曜日は専門のカウンセラーの方もいます。

相談を希望される場合の連絡先
TEL 076-493-0533(保健室)
メール gaku-soudan@nc-toyama.ac.jp

射水キャンパス

学生相談室長 岡部 寛子

「学生相談室」は、学生たちが生き生きと充実した学生生活を送れるようサポートするために設置されています。高専生活は5年間または5年半という長い時間です。この期間に学生は、心も身体も大人へと大きく成長していきます。そのような中で、学業や部活動、友人関係や進路などさまざまな悩みや迷いをもちます。そのような時、または何となくでもいいのです。気楽に相談室を訪ねてほしいと思っています。

「学生相談室」は、教員から選出された学生相談員5人と看護師で構成されています。そして、週2回(月・水曜日)臨床心理士の資格を持つカウンセラーも来校します。

また、本校では学生に関する保護者の方の相談もお受けしています。学生の様子がいつもと違う、また何か気がかりなことがあるという時に、気軽に相談室にご連絡ください。カウンセラーとの面談も可能です。連絡先は下記の通りです。相談内容の秘密は厳守します。しかし、必要な場合には担任・主事・学科主任などと連携してサポートします。なお、昨年度の相談件数は学生118件、保護者7件でした。

相談を希望される場合の連絡先
TEL 0766-86-5140(保健室)
メール soudan@nc-toyama.ac.jp(相談室長と看護師宛)

Editor's room 編集後記

今

年は記録的な高気温の秋でした。10月の始業式から10月11日(金)には合同球技大会があり、第3週目には2年生から4年生までの学生は県内外の工場見学に行きました。20日(日)にはロボコンの東海北陸地区大会、26日(土)には高専祭PRのための仮装行列があり、11月2日(土)～3日(日)の高専祭まで、盛りだくさんの行事の中、準備を行っていた学生の皆さん、本当にお疲れ様でした。通常の授業や課題をこなしながら、タイトなスケジュール

の中でしなければならないことに追われ、きつい、苦しい、眠いと感じていたと思います。でも過ぎ去ってみると、皆と力を合わせて成し遂げた充実感がそこにあったのではないのでしょうか。9号では様々な課外活動に一生懸命向き合う学生たちの姿を掲載しました。

広報戦略室 津森 展子

問い合わせ先

本郷キャンパス：〒939-8630 富山県富山市本郷町13番地 TEL 076-493-5402
射水キャンパス：〒933-0293 富山県射水市海老江練合1番2 TEL 0766-86-5112

<http://www.nc-toyama.ac.jp/>



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。